

しんえつほんせん

信越本線トンネル群

おおまわりずいどう

とくさずいどう

さかぐちしんでんずいどう

大廻隧道・戸草隧道・坂口新田隧道

中部地方の
選奨土木遺産

平成 25年度登録

所在地および管理者

大廻隧道：長野県上水内郡飯綱町・信濃町、東日本旅客鉄道株式会社

戸草隧道：長野県上水内郡信濃町、信濃町

坂口新田隧道：新潟県妙高市坂口新田、東日本旅客鉄道株式会社

竣工年：1886（明治19）年

認定理由：明治期に信越本線長野関山間に建設された大廻、戸草、坂口新田の3つのトンネルで、煉瓦と切石で組まれた大変貴重な土木遺産である。



大廻隧道



戸草隧道

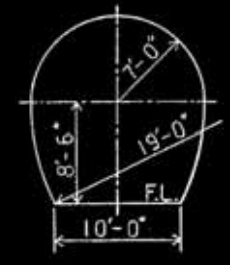


坂口新田隧道

「隧道（ずいどう）」とは、トンネルのこと。

信越本線は、やや複雑な経緯によって形成された鉄道路線である。高崎から軽井沢、上田、長野、直江津、柏崎、長岡を経て新潟へ至るものであるが、直江津～新潟の線区は、私設の「北越鉄道」が1907（明治40）年に国有化されて組み入れられたものである。高崎～直江津は、当初は東京と京都を結ぶ「中山道鉄道」の一部として、高崎～上田の路線と、その資材を直江津港から上田へ運び入れるための路線として計画されていた。1886（明治19）年に、「中山道鉄道」の計画を廃して、「東海道」を経由することが決定したために、建設中であつた高崎・上田間は関東と日本海を結ぶ鉄道と位置づけが変更される。

大廻隧道・戸草隧道・坂口新田隧道は、上記路線中のトンネルとして最も古く、軽井沢～直江津が全通した1888（明治21）年に建設された。最初に竣工した坂口新田隧道は、笠石・帯石・要石の他は煉瓦構造である。一方、大廻隧道と戸草隧道は、トンネル内部の覆工が煉瓦アーチ、側壁・坑門は切石積みでできている。大廻隧道北側坑門のみ、笠石が階段状に仕上げられている。いずれも規格は京都大津間鉄道の逢坂山隧道と同様の断面（14ft、馬蹄形）が用いられているが、細部においては三者三様のオーダーメイドであり、面白い。



例えば戸草隧道北側坑門：整形切石の坑門に迫石・要石、笠石・帯石の造形、トンネル内部は側壁が切石積みで覆工は黒ずんだ煉瓦のアーチ。

同規格の逢坂山隧道断面

